

大山小算数だより

鶴岡市立大山小学校 令和8年5月20日（火）文責：白幡直人

第1回ベーシック研修会に参加してきました

第1回ベーシック研修会に参加してきました。研修会の内容を紹介します。研修の資料も回覧しますので、ご覧ください。今年度の事業についての確認、グループでの協議、を行いました。グループ協議では以下の2つの視点について話し合いました。

算数を通してどんな子どもになってほしいか

- ・生活に生きる力を育みたい。算数の学習内容を、日常生活で活用することができるようにしたい。
- ・多面的、多角的に考えることができる児童になってほしい。そのためには対話がポイントになりそう。
- ・数の面白さを感じることができる児童になってほしい。算数の面白さを実感させたい。

何ができるかな…

- ☐ 単元を縦にみる意識を持ちたい。単元づくりに重点を置いた授業改善。
- ☐ 学習指導と生徒指導は両輪となる。
- ☐ 日常生活の場面/数の場面、の区別を意識した学習過程のサイクル。

児童の言動や記述等の姿を

具体的にイメージした授業とはどんな授業か

- ・指導書通り（授業が始まってからその日の学習内容を確認…）の授業は、イメージができていない…
- ・児童の実態を捉えることはやはり大切になりそう。本時の具体的なイメージにつながるはず。
- ・ねらいを明確にしたい。知識/技能なのか、思考/判断/表現なのか…

何を意識する…

- ☐ つけたい力を教員がかみ砕いて理解する。教員側がまず明確にする。
- ☐ 個の思考の流れを追うためには、単元を縦に見る意識、系統を捉える意識を持ちたい。
- ☐ 児童のゴールを意識した授業づくりをしていきたい。

2つの視点で話し合う中で…

授業改善を進める中で、学習過程のイメージを持つことが大切な…と思いました。
特に、日常生活や社会の事象（左回り）と、数学の事象（右回り）を、指導者が意識すること（区別すること）がポイントになりそうです！

